



青少年赤十字通信

2011. 2. 22

第16号

日本赤十字社新潟県支部
新潟県青少年赤十字指導者協議会

1. 赤十字広報特使「藤原紀香さん」が加盟校を訪問

「日本で生まれた命も、貧しい国で生まれた命も同じ。遠い国の話だと思わず、自分たちでできることを考えてくれたら。」東京都新宿区立大久保小学校で6年生児童への授業を行った赤十字広報特使の藤原紀香さん。特使として訪問したケニア共和国では貧しさの中で幼い命が簡単に失われている現実を紹介し、命と助け合いの大切さを訴えかけました。

今回の訪問授業で藤原さんは、赤十字の成り立ちを描いた絵本「赤十字をつくった人 アンソニー・デュナン」の朗読を行いました。「アンソニー・デュナンはどんな人？」の質問に、児童からは「人の痛みを分かる人だから、人を助けることができたと思います」といった答えが元気に寄せられました。

初めて先生として授業を体験した藤原さんは「いじめのように自分がされたら嫌なことは人にしない、自分がされたらうれしいことを他人にしてあげる。ボランティアやチャリティーなどは日本ではまだ照れ臭いと感じるかもしれないけど、自分を信じて行動してほしい。それはとても素敵なことで、未来につながる大切なことだと思います」とメッセージを贈りました。



絵本「赤十字をつくった人 アンソニー・デュナン」を日本赤十字社HPからダウンロードできます。

http://www.jrc.or.jp/oshirase/13/Vcms3_00001989.html

2. 石川遼選手が同世代に献血の協力を呼びかけました。



日本赤十字社は、厚生労働省、都道府県と共に、新たに成人式を迎える「はたち」の若者を中心として広く国民に献血に対する理解と協力を求めることを目的とした「はたちの献血」キャンペーンを全国で展開しました。

今年も、昨年に引き続きゴルフ界のみならず広い知名度と人気を誇る石川遼選手を広報キャラクターに起用。加えて、2008年に急性リンパ性白血病を発症し、輸血を始めとした闘病生活を経て一命を取り留めた峰山真彩さん(8歳)に共演いただき、20歳(はたち)を含めた同世代を中心に献血への協力と参加を呼びかけました。

更に今回は、国民的な人気を誇るアーティスト『ゆず』が当キャンペーンに賛同いただき、『Hey 和』という楽曲をキャンペーンソングとして提供いただいています。ぜひ聞いてみてください!!

3. 来年度もやります!! プロスポーツチームとのパートナーシップ

赤十字では、平成22年4月より「アルビレックス新潟」、「新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ」と地域支援パートナーを締結し、スタジアムや地域でさまざまな活動に取り組んでいます。

平成23年度もパートナーシップを締結し、青少年赤十字を対象としたプログラムにも取り組んでまいりますので、ご期待ください!!

<検討中のプログラム>

- ①選手のJRC加盟校訪問
- ②トレセンへの選手参加
- ③JRC&アルビ コラボグッズの作成



4. 卒業と入学に祝電をお送りします

毎年お送りしておりました卒業式の祝電に加え、今年から入学式の祝電も随時お送りいたしますので、ご活用ください。

また、当支部が事務局となり実施している「新一年生に対する黄色い交通安全帽」も各市町村を通じて県内の小学校に発送が始まりました。各学校で一年生にお渡しする際には、「みなさんが交通事故に会わないように、赤十字からのプレゼント」と一言添えていただければ幸いです。



何でもお気軽にお問い合わせください!!

<担当> 日本赤十字社新潟県支部 組織振興課 小原(おばら)

TEL 025-231-3121 FAX 025-231-3122

メール jrc@niigata.jrc.or.jp ホームページ <http://www.niigata.jrc.or.jp>